

協働の必要がある場合はどちらにも◎○などをつける▼

テーマ	n o	目指す状況（現在できているものも含む）	現状について	対話のポイント	例えば／より具体的に（誰が、何を、どこで、どのようにしますか？）／実現するまでのステップetc.	重要度 （ABC）	行政	Nスポ	競技団体 や少年団 など	資料
大会・合宿誘致	1	市役所・新団体の大会・合宿誘致専門部署があり、競技団体と協力・連携している	現在Nスポを主管しているスポーツ合宿推進課がそれにあたる	連携して何が実現できるといいのか？						
	2	競技場や体育館など大会施設の拡充（廃校活用や観客席の拡充を含）や、既存施設の冷暖房完備などの改修されていて使いやすい。	市の予算と指定管理施設計画に則り実施している	改修がすぐに実施されない場合、それを補う方法はないか？						
	3	宿泊施設が充実している（町内会館、空き家などの利用も検討）。予約調整などで宿泊業組合と連携がとれている。	旅行代理店や資格取得者がいないと配宿はできない。宿泊施設の一時的な増設は人員不足で難しい可能性が高い。							
	4	シャトルバスなどが運行し、施設間を移動しやすい		費用負担をどうするか						
	5	合宿参加チームへの費用助成がある（宿泊料の補助など）	本テーマはハード（施設など）に関する内容が多いが、3年以内に実施されるハード改修などはない。そのため、改修などに頼らない解決策や実施策を考えてください	どこから費用を出すか（行政が担う場合、名寄市の税金から支援することに市民の納得は得られるのか/助成以上のメリットを市民が感じられるか）						
	6	大会運営をサポートするボランティア（学生などを含）や専門スタッフが確保されている								
	7	施設管理（利用予約や情報提供など）が一元化されわかりやすい、使いやすい	名寄スポセンはウェブサイトあり	どのようになったら使いやすいか						
	8	合宿誘致のための営業活動ができていて、ウェブサイトやSNSでの情報発信や、PRのためのイベントなどが実施されていて、名寄市が合宿先選ばれている	「なよろスポーツナビ」のウェブサイトで施設などを紹介。	どのような活動が必要か。PRイベントとは例えばどんなものか						
	9	市内企業スポンサーや、企業・団体との連携がとれている	一部の大会やイベントに企業からボランティアを出してもらっている	連携してなにをするか						
	10	プロスポーツ選手との連携	把握していない	連携してなにをするか						
スポーツ機会の創出	11	市民にとってスポーツ施設の予約・確保がしやすく、観覧もしやすい施設になっている。	名寄スポセンは電話、現地問い合わせ	ハードはすぐに変更できないので、現状でなにができるか。						
	12	バスなどが運行し高齢者がスポーツ施設にアクセスしやすくなっている	のーと、ファミサポなど	費用負担をどうするか。現存ののーとなどのサービス利用の促進のためにできることは						
	13	高齢者や障がいがある人でも参加しやすい楽しく安価にできる教室やイベントが充実している	スポーツ教室などがある、ポッチャ市民大会、パラスポ体験会など							あり
	14	働き世代（30～50代）がスポーツを楽しみたいと思えるようなスポーツ教室、体験機会や運動会などのイベントがたくさん提供されている。	名寄・風連ともにさまざまなスポーツ教室が開催されている。まちなか運動会やウォーキングイベント（月1）など大人も参加できるイベントも開催されているが参加者の固定化が進んでいる	どうしたら・なにがあったら「本当に」参加してくれるのか。						あり
	15	使用料の負担を減らす	減免制度あり	使用料を減らすことは施設の収入減につながるため、改修への費用を掛けにくくなるという相反する関係にある。どちらを優先するか？						あり
	16	会社からのスポーツ支援助成・手当がある。そういった雰囲気を作る	市役所は運営や競技団体の派遣依頼があった場合には一部勤務免除が可能。「健康経営優良法人制度」という経産省の制度がある							あり
	17	除雪や草むしりなど、新しいスポーツの開発と普及ができています		新法人がやるべきことかどうか						
	18	学校との協力（施設利用や授業での「体育」だけでないスポーツ体験など）	教育委員会などと一部協働。大会のお知らせ、BBさん派遣、名寄高校の部活動体験など							
	19	市やNスポのウェブサイトやSNSで各団体の紹介を行う。	2018年度に広報なよろでNスポが実施したことがある。情報収集が難しい	競技団体や少年団ができることはなにか						
	20	競技団体・少年団など組織内の人たちの意識や取り組み度合いの差が埋まり、人が留まり持続的に運営されている		この状態を創るために必要なことはなにか？						
子どものスポーツ体験の充実	21	施設の増設・拡充と、移動手段の確保など（ナイターの整備や幼児でも使用できる施設があるといい）	移動については拠点校対応として運用中。幼児が気軽に運動できる場所としては「にこにこランド（西條2階）」がある	どこまで必要か？行政予算・計画との兼ね合いで難しい時にどうしたらいいか？						あり
	22	学校で経験しない種目やより簡単な競技、マルチスポーツなどの新しいスポーツ体験ができる機会がある。また、子どもが興味を引くスポーツイベント、親子でスポーツ体験できる機会が充実している	まちなか運動会、幼児向けスポーツ教室はある。スポーツの日に少年団体験会を開催している。親子向けの教室は2017～18年に実施したが参加者が少なく事業を中止した	どんな教室、イベントがあるといいのか？具体的に						

テーマ	n o	目指す状況（現在できているものも含む）	現状について	対話のポイント	例えば／より具体的に（誰が、何を、どこで、どのようにしますか？）／実現するまでのステップetc.	重要度 （ABC）	行政	Nスポ	競技団体 や少年団 など	資料
	23	競技団体による子ども向けスポーツ体験会が充実している	スポーツの日に協力してくれる5～6程度の競技団体で実施している	年に何回？競技団体は協力してくれるのか						
	24	スポーツイベント・体験会カレンダーがあり、情報が集約されている	スポーツ教室カレンダーはある							あり
	25	学校との協力（クラブ活動の充実やいろいろな種目を授業へ）	学校から依頼がないとにくい。	どんな協力があるといいか						
	26	プロスポーツ選手との交流	陸上、バレー、バスケ、ノルディック、野球などは実施している	どんな目的で交流をするか？						
	27	名寄といえば、という競技がある	対外的にはノルディックスキー（合宿・大会が多く、施設がある）、カーリング	他の種目へのサポートがおろそかになる可能性は？						
	28	競技団体によるSNS運用ができている	把握していない	どうしたら競技団体は運用できるか？						
	29	ジュニア選手の育成ができている	各競技団体については把握していない。Nスポはジュニアスポーツエコシステムを実施							あり
指導者の育成・ 充実・増やす	30	種目・世代を横断して指導者が定期的な意見交換や交流ができ、サポートしあえる状況になっている	各競技団体については把握していない。Nスポはジュニアスポーツエコシステムを実施	エコシステム以外の競技団体などとの交流をどうするか						あり
	31	資格取得や指導のための費用助成があり、指導者やスポーツ担い手人材の費用的負担が軽減されている。	名寄スポ協で少年団の資格取得の際に助成している							
	32	指導者が収入が得られている（指導者として持続的に関われる体制づくり）								
	33	指導者の質を高める研修の充実（種目ごとのスキルトレーニングではなく、感謝を大切にすることや勝利至上主義に陥らないコーチングマインドの醸成）	指導者育成教室・セミナーなどは年に2～3回実施	具体的に？どんな研修？環境？						あり
	34	企業や団体がスポーツ指導のためにフレックスタイムで仕事ができる。	把握していない							
	35	外部講師の招聘	コーディネーショントレーニングなどの講師を札幌から定期的に招聘していたが、希望が少なく事業中止している	どういった人材を求めているか？						あり
	36	サポートする大学生や経験者が携われる環境ができている。気軽にボランティアできる環境ができている。	大学生による野球見守り事業を今年度実施済							あり
	37	指導者を目指す子どもたちを育成する								
	38	保護者の協力（保護者が資格をとったり、指導者に感謝することなど）	トランポリンでは実施している	どんな協力があるといいか						
	39	人材バンクへの登録と活用	人材バンクは運用中							あり
	40	小学校・中学校が一緒に練習している	一部競技団体で実施している（カーリング、アルペンスキー、トランポリンなど）	具体的には？						あり
中～高のスポーツ環境	41	Youtubeやオンライン指導などの活用	把握していない	具体的にはどんな方法があるか？						
	42	中学生まではスポーツを一つに絞らずに多様に選べるような体験環境・仕組みづくり。競技を越えた交流やトレーニングができている。競技団体の受け入れ体制の整備	ジュニアスポーツエコシステムで一部実施、競技団体の状況は把握していない	競技団体・少年団はなにをしたいか、できるか						
	43	小・中・高が連携した体制がとられ、指導だけでなく学校施設の利用や、学校行事などの調整ができている	ジュニアスポーツエコシステムで一部実施、競技団体の状況は把握していない。剣道は高校道場などを利用	競技団体・少年団はなにをしたいか						
	44	高校まで同じ競技ができる環境づくり	高校に該当部活やクラブがなく、継続をあきらめたり市外に進学してしまう現状がある。バレーは中学校に部活がない場合も。	名寄高校で全てを担うには生徒数により難しい。どうするか？						
	45	総合的なスポーツ施設、競技別に対応した施設の整備。指導と場所が提供されている状態をつくり、スポーツのできる日を増やす。	スポセン、野球場などはある。指導者が常について自由に使える、などの状況はない。	施設改修などは行政予算と計画によるため実施できない可能性が高い。その場合どうするか。具体的には？						
	46	学校と施設間の移動手段があり、子どもたちがスムーズに放課後にスポーツができている	拠点校対応で実施中、のるーとの活用	既存サービスが活用できていないのはなぜか						あり
	47	遠征費や用具費など保護者の負担がかかるため、用具の貸与などができている		競技により差が出る可能性が高い。誰が負担するのか						
	48	競技団体や少年団がSNSを活用して発信する、他団体の活動を見る	把握していない	どうしたら競技団体は運用できるか？						
	49	Youtubeやオンライン指導などの活用	把握していない	具体的にはどんな方法があるか？						
	50	指導方法が充実している。また様々な指導者やボランティアが関わるため、スポーツのケガやリハビリなど、なにかあった場合の救護の情報提供や仕組みづくりができている	ジュニアスポーツエコシステムで指導者講習会などを実施している	具体的にはどんなものがあるといいか						